

“おもしろくて ためになる 学びの共有”
わかちあい

日本教育カウンセラー協会秋田県支部機関誌

教育カウンセラー あきた

第2号

2003年（平成15年）8月9日発行

あいさつや返事をするこ

秋田県支部長
水戸谷 貞夫

秋田県人は、人見知りで、何となくとっつきにくいと言われている。「すべての子どもたちの職業観・勤労観をはぐくむために」（平成15年1月、国立教育政策研究所生徒指導研究センター刊行）の「児童生徒の成長に応じた学習プログラムの枠組み」の中に、進路発達にかかわる諸能力の一つとして、「コミュニケーション能力」が示されている。これは、多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力であるとされるが、これこそが秋田県人にとって大切な能力ではないかと考えたい。

過日、進路指導全国大会に出席した折、多くの方々から、「以前、講演をお聞きしました」、「ブロック大会でお目にかかりました」等、声をかけられ、うれしい気持ちにさせられたものである。県内ではそうした場面はなかなか見られないのではないだろうか。

カウンセリングの大切さは、優しく、確かに声かけをすることであると考えたいが、あいさつや返事を忘れたら、うまくいかないのは当然であると思う。

大きく、立派に育つ人間は、常に自分に（自分の心を含めて）呼びかけをし、励まし、努力を続けていると聞いた記憶がある。これらについてじっくり話し合いたいと思っている今日この頃である。



「育てるカウンセリング」の広がりを実感した養成講座

秋田県支部事務局長
阿部 千春

最終日の午後、國分康孝先生の講座終了間もない頃、司会席のところで会場全体を見渡しました。秋田の地に、「育てるカウンセリング」の芽が育ち、着実に広がっていることが感じられ、非常に感慨深いものがありました。國分康孝先生の公開講演会から2年の年月が流れたことを思い、心にじんときるものがありました。

私が事務局長としての役割を意識したのは、2001年1月に東京で開催されたヒューマンネットワーク総会での、國分康孝先生からの有り難い言葉からとってよいかと思います。事務局長という仕事の重みについて感じるころがあり、秋田で初めての教育カウンセラー養成講座をどうしても成功させたいという強い思い入れがありました。秋田にいらした講師の先生方が気持ちよく講座ができ、秋田で気持ちよく過ごしてもらおうこと、そして、参加者のみなさんが足を運んでよかったと思っていただくことを願って、準備を進めていました。國分康孝先生、國分久子先生、岡田 弘先生、河村茂雄先生、大友秀人先生、押切久遠先生という6名の素晴らしい講師の先生方と、養成講座に向けて何度もやりとりさせていただいたことは本当に貴重なことであり、私にとっての大切な財産だと感じています。養成講座当日は、東京でお会いすることの多い先生ばかりなため、ここは本当に秋田だろうかと思ってしまいました。

養成講座の開催まで、秋田県内各地に住んでいる準備委員のメンバーと仕事の確認のためのメールのやりとりが連日のように

続き、多い日には十数通ものメールを書いていたように思います。16人のどのメンバーも、自分の仕事を抱えながら、生き生きと自分の役割を果たしていました。大変な中での役割遂行が、より一層の充実感や達成感につながったのではないかと思います。養成講座という一つの目的に向かって、メンバー同士のヒューマンネットワークも縦横に広がったように思います。

**教育カウンセラー養成講座秋田会場
(4/12.13.20)
受講者アンケートまとめ～一部抜粋**

1. 日時について

- ・2月頃の開催であればもっと参加者が増えると思う。
- ・日曜は参加しやすいが、年度初めは物理的、体力的にきつく、もう少し学校に余裕のある時期にしてもらえるとよい。
- ・年度初めは、都合の悪い人も多いと思う。
- ・年度初めは、今年度の指導や活動の中に取り入れていこうという意気込みにつながるのよい。
- ・今後も4月、土日の開催だと参加しやすい。
- ・夏季休業中の開催も今後考えてほしい。

2. 講座(講師、内容等)について

<岡田弘先生>

- ・進め方のうまさに都会的なセンス、パフォーマンスという言葉がピッタリという感じだった。
- ・仲間づくりにとってもよい。岡田先生のように笑顔絶やさぬ授業をしなくては、と思った。
- ・理論に関する講話はもちろん勉強になるが、実践的なものが多く、より具体的に身に付いた。
- ・話し方が上手で、引き込まれた。また、話を聴きたい。
- ・はじめにエンカウンターをしておくことで、講座の話はもちろんだが、場の雰囲気もよくなり、まさに、「ためになって、面白い」始まりとなり、よかった。
- ・岡田先生の講座がはじめだったことは参加者が一体となる意味でよかった。

<押切久遠先生>

- ・非行という言葉が一般の人にわかりやすい言葉で説明していたように感じた。

- ・PTAや生徒対象に非行の話をするときがあり、このような方法を用いれば聴き手が受け入れやすくなるかもと思った。
- ・体験を通しての話が、とても受け入れやすかった。
- ・なかなかなくならない非行という問題にも事例を使って考える作業は有効なのではないかと改めて感じた。生徒ともやってみよう。
- ・学校以外の多面的なことに目を向けることができ、貴重な体験だった。
- ・全てにおいて聞き漏らしがたい有意義な講義だった。
- ・中学校に勤めているので、生徒にすぐに資料提供できるものだった。
- ・はじめて話を聞き、「非行探し」エクササイズは学年で内容を変えることで、また拡がりをもたせられると感じた。

<河村茂雄先生>

- ・一言一言が心にしみた。今現在、考えていること、直面していること、その打開策を具体的に示してもらった。
- ・全ての部分にうなづいて聴いた。有効なSGEもやり方やプログラム、そして、クラス状態によってはやらない方がよいということをお忘れずにいたい。生徒指導とカウンセリングの間にいるような教師に是非なりたいと思った。
- ・カウンセリングとリーダーシップの違い、相手により対応を考えることなど、大変わかりやすく、かつ勉強になった。
- ・教育の現在の問題をわかりやすく話してください、教師が今、全てをかけて臨まなければならないものが見えてきた。
- ・全てがよかった。何度でもお聴きしたい。
- ・何も言うことのない最高の講義だった。わかってもらえているという感じがした。

<大友秀人先生>

- ・授業で使えるぞ、と思い、実際にどこで使おうかと考えながら聴いた。
- ・授業づくりへの熱意ある話を楽しく拝聴できた。
- ・「授業をやっていけば信頼が得られる」は、まさに教師という仕事の本質的な部分だと思う。忙しいと言い訳するのは簡単だが、やはり、授業が自分にとって面白いものであれば、生徒もやる気になるだろうと感じた。教師だからこそできることを大切にしたい。
- ・身近にあり、使えるものは何でも使い生かすことも問題解決につながり、特にビデ

オを使った心の教育では、自分自身の思考を発見するのに勉強になった。

・授業にカウンセリングが生かせることをはじめて知った。目から鱗が落ちた。

・いい授業とは、考えさせる授業とは、とはっきりさせてくれた講座だった。常に何を使うのか、何が使えるかを見分ける感性を失わないようにしたい。「普段の仕事をしっかりやってのカウンセリングの勉強」という言葉に励まされた。

<國分久子先生>

・幼少期の発達段階によって性格が形成されるのは興味深く、それを修正する方法があるのも勉強になった。クラスの子どもを理解するのに役立った。また、教師として何ができるか、何をすべきか指針を示していただき、参加してよかった。

・精神分析学を改めて学ぶ気になった。

・温かいお話、是非またうかがいたい。

・精神分析的カウンセリングの必要性が大変よくわかった。事例についての配付資料がありがたかった。

・夢中になってノートをとった。もっと時間があればという思いでいっぱいだった。

・わかりやすい講義だった。教師は精神分析を知っていた方がよいのではないかと新たに思った。子ども理解にとっても役立つと思った。

<國分康孝先生>

・うれしくて、ドキドキしながら講義を聴いた。

・先生自身の人間性に触れた思いがした。

・知識ののみならず、人間的に大きなものを得られたことに感謝したい。

・これから生徒や保護者と接するときに講義が生かされると感じた。エンカウンターを行う上での大きな柱の部分を学ぶことができた。

・雲の上の存在の大先生であるのにそれを感じさせず、仕事に生かせるカウンセリングが好きになれそうだ。

・教育カウンセリングの基本が大変わかりやすく、また人生哲学についてもずいぶん考えさせられた。何よりも人間としての成長を私もしたいと思う。

・スクールカウンセラーと教育カウンセラーの違いがよく理解できた。

・國分ワールドを十分に堪能できた。

3. その他(質問, 要望等)

・このような講座を開いてもらったこと、

自分の人間としての未熟さを知り、さらに向上したいと思えるようになったことに感謝している。

・教師としての本質的な素養を育ててくれる講座だった。

・講座への参加によって、本の知識が本物になっていく感じがした。

・カウンセリング技法として段階的に考えられたプログラムで、認定を希望しなくても十分に勉強することができた。

・講座運営にあたっているスタッフの対応が素晴らしく、しかも若い人が多いので驚いた。

・山形から片道5時間かけての参加だったが、大変楽しく、「来てよかった」と感じた。タクシーの手配や証明書なども準備してもらい、得をした気分。感謝している。

・素晴らしい講師の先生方の話を聴けて幸せだった。今後も秋田で受講できるようにお願いしたい。

・スタッフが楽しくやっていて、接するだけでうれしくなった。若いスタッフを一つの組織にまとめたリーダーの方々の素晴らしいリーダーシップに感動した。

支部ホームページ案内

支部運営委員の後藤和芳さんが管理する「日本教育カウンセラー協会秋田県支部」のホームページが公開されています。落ち着いた大人のイメージの、何とも心地よいページになっています。是非、一度ご覧ください。今後もたくさんの「面白くて、ためになる」情報を提供していきます。

アドレスは以下のとおりです。

<http://ww5.et.tiki.ne.jp/~kaz-goto/>

研修会情報

I. 日本教育カウンセリング学会研究発表大会

○期日 平成15年10月25日(土)～26日(日)

○大会テーマ 「これからの教育カウンセリングに期待するもの」

○主な内容

・個人発表, 分科会協議, 記念講演,

公開シンポジウム

○参加費 6,000円

Ⅱ. 教育カウンセリング公開講演会

○期日 平成15年11月22日(土)

○テーマ 「勇気づけで子どもをはぐくむ～教育に生かすアドラー心理学」

○講師 会沢信彦先生(函館大学)

○会場 秋田市千秋会館

○参加費 会員1,000円,
一般1,500円, 学生1,000円

教育カウンセリングトピック 「使える!! アイメッセージ」

○アイメッセージとは何か

・「親業」のT・ゴードンが提唱する、効果的なコミュニケーションの方法。

・人間関係の中で、自分がどうしても受容できない「問題」を抱えたとしたら、「私」を主語にしてどう感じたかを語ればよい。「私が感じているのは……」、「私が考えているのは……」、「私が知っているのは……」など。「私」の思いを語るという意味で「アイメッセージ」と呼ぶ。反対に、「私」の思いを語らずに、「あなた(相手)」の行動のみについて語るのが「ユーメッセージ」である。

○三部構成のアイメッセージ

・相手との関係の中で、何が自分にとって問題となり受け入れられないのかを具体的に

に伝える必要がある。

君が大きな声で話していると、授業ができなくて困っているんだ

- ①相手の行動に対する非難がましくない表現；抗議対象の行動をビデオカメラのよう にただ描写する
- ②その行動がもたらす自分への具体的で目に見える影響
- ③その負担についての自分の感情

・上記の例は、「○○しなさい」、「ダメじゃないの」というユーメッセージより、はるかに効果的なメッセージであり、相手の行動変容の期待がもてる。しかしながら、人は誰でも自分のとっている行動が問題を引き起こしたと言われていい気持ちがないのも確かである。(アイメッセージも万能ではないし、魔法の呪文ではない) それでもなお、アイメッセージで、自分がいかに問題を受け入れられずに困っているかという感情を伝える方が、相手を非難しているわけではないので、受け入れやすい。相手にとって、「相手の行動が私にとって問題を起こしている」と伝える方法の中で最善である、ということである。

☆☆☆支部入会案内☆☆☆

皆さん、是非、秋田県支部に入会しませんか。年4回発行の支部便り送付、各種研修会の割引等の特典があります。

たくさんの方の入会をお待ちしています。

編・集・後・記

今年になって、教育カウンセリングに関連するいくつか新しい展開が県内で始まっている。その一つが秋田Q-U学習会である。先日の「第3回学習会」では、学級崩壊状態にある学級の事例を元に、分析及び具体的な方策を立てる実習を行った。教育愛だけで片づく問題もあるが、そうではない問題もある。山積する問題を解決するために、教師が学び、身につけることのできるものがたくさんあると感じた。教師が学ぶことにより救われる児童生徒が増えるなら、それは素晴らしいことである。「学習指導要領改正」報道にあるように、教育をめぐる、様々なことが急速に変化する時代である。そうした時代にあっても、教える側が忘れてはならないことが、子どもに対する「誠意」であると思う。(Y)